

新名誉会員の紹介：前会長 大山達雄氏

大山 達雄 氏

(昭和20年11月生まれ)

本学会前会長 大山達雄氏に対し、名誉会員の資格を授与することになりましたので、ここにそのお祝いの意味も込め、その功績を記させていただきます。



大山達雄氏は東京大学工学部および同大学院を修了後、電力中央研究所に入所されました。また同研究所在任中に米国コーネル大学に留学しPh.D.の学位を取得されています。1980年より埼玉大学にて教鞭をとられ、約20年間に多くの学生を指導されました。同大学院政策科学研究科を基に政策研究大学院大学(GRIPS)が設立されるに伴い異動となり、以降GRIPSにおいて引き続き学生の研究指導にあたられています。この間に研究科長と副学長を務められ大学運営に多大の貢献をなされました。埼玉大政策科学研究科・GRIPSともに、その学生は主に中央官庁、地方自治体、公的企業から派遣された社会人であり、また海外からの留学生が非常に多い(彼らのほとんども母国の公務員)という国際性豊かでユニークな大学院です。大山氏の指導された数多くの学生諸氏は、それぞれの出身母体において、氏の下で学んだORと国際的な環境で培った感覚を糧に活躍を続けています。さらに学内では研究のみならず、学生と教職員の親睦に心を砕かれ、毎年大山杯ソフトボール大会を企画して自らプレイなさっています。

先生のご研究分野は、公共政策におけるORの応用を対象とし、エネルギーモデル、ネットワーク分析、選挙制度、高等教育政策、食料政策、危機管理など、社会システム全般を広くカバーするものです。研究では多面的な視点を大切し、データを大切にすることというのを繰り返して述べられ、実証的な研究を心がけることを常に強調してこられました。

OR学会での活動も枚挙に暇ありませんが、特筆すべきは国際関係の業績です。コーネル大学以来の海外研究者との太く広い人脈を通じて、OR学会きっての

国際派として活動され、多年にわたりAPORS、IFORSの両組織を通じて海外学会との関係を強化し、本学会の国際的地位の向上に努められました。一方国内においても、研究発表会の実行委員長や研究部会の主査として精力的に研究活動を推進され、OR研究の普及を進められました。人のつながりを大切にし、研究者の交流の場を演出する、人を集める氏の魅力は多くの会員の知るところでありましょう。今後とも学会へのさらなる貢献をお願いいたします。

【略歴】

- 1969年 東京大学工学部卒
- 1971年 同大学院修士課程修了、同年財団法人電力中央研究所経済研究所入所
- 1977年 米国コーネル大学大学院工学部OR部門博士課程修了 (Ph.D.取得)
- 1980年 埼玉大学教養部講師
- 1981年 同助教授
- 1988年 同大学院政策科学研究科教授
- 1997年 政策研究大学院大学教授
- 2000年 政策研究大学院大学政策研究科長
- 2003年 同副学長
- 2009年 同理事

【OR学会関係】

- 1993～1995年 国際理事
- 1996年～ フェロー
- 1997～1999年 編集理事
- 2006～2008年 副会長
- 2016～2018年 会長